

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	五ノ井 ゆかり	学校名	埼玉県立入間わかさ 高等特別支援学校
担当教科等	外国語	対象学年（人数）	1年A・C・D・E組（40名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2022年10月～11月（12時間） 本時 11月1日（火）13:30～14:20 1-C 11月2日（水）8:55～9:45 1-E 11月10日（木）11:55～12:45 1-A 11月10日（木）13:30～14:20 1-D		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：外国語（コミュニケーション）		
2. 単元(活動)名：社会で居心地よく暮らすためのコミュニケーション力をつけよう！		
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標 授業テーマ：「皆が仲良く暮らせる社会を作るため、初めて会った人へ自然に声をかける」 単元目標：生徒が卒業後社会の中で幸せと感じられる居場所を作るために、初対面の人に話しかける方法を学び、外国人・高齢者にもわかりやすく日本語で話せるようにする。 関連する学習指導要領上の目標： 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （1）外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づくとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に着けるようにする。 学習指導要領と本授業との関係： 本校の生徒は、日本語・外国語（英語）ともに言語活動を苦手とする者が多い。外国語は毎回の授業で読む・聞く・書く・話す学習をしている。それ以外にも外国人講師を招いて講師の出身国の文化について学習したり、講師と言葉を交わしたりする授業を取り入れている。生徒は就労のための実習で外国の方と一緒に働くことも多い。その場合、会社内で使う言語はほとんど日本語である。生徒が学習している英語が得意でない外国人もいる。今回は、仲良くなるための最初の一言を課題とし、コミュニケーションの手段として日本語を取り上げている。生徒が会社内で、外国人ともその他の人々ともコミュニケーションがうまくできれば、会社の中での居心地がよくなり、就労した場合仕事を長く続けていくことができる。生徒のニーズを考え、初めて会った人への日本語での自然な声のかけ方を学ぶ。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて話す人への自然な声のかけ方を理解し、声をかけることができる。 ・相手によって、話す言葉を選択することができる。
	②思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人に適切に声をかけ、助けることができる。 ・相手に配慮し、どう話したら分かりやすいか考えながら話すことができる。
	③学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の課題が与えられたときには、グループで協力しあい、役割を配分し、聞く人が分かりやすい発表をすることができる。

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義</p> <p>(児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】生徒はコミュニケーションに苦手意識を持っている。しかし、彼らが一言話しかけ仲良くなることができれば、勤める会社や社会での生活はもっと居心地が良くなる。就労に向けて指導をするうちに、居心地が良くなる例を何例も見えてきた。そこで、生徒達がどうやったら、自然に話しかけられるか、どんなことを話したらいいのか、どうやったら仲良くなれるのか、皆で考えていく。</p> <p>【単元の意義】生徒が社会の中で仕事と家庭生活を両立させながら、仕事を続けていくためには、周りの人達とコミュニケーションをとり、過ごしていくことが必要である。そのために、初めての人に話しかけるという練習を続けていく予定である。</p> <p>【生徒観】生徒は職業学科に所属し、卒業後に企業での就労を目指している。知的障害があり、特に苦手なのは言葉によるコミュニケーションである。社会で居心地よく過ごすために、また長く就労先で働くためには、会社内での同僚や上司とのコミュニケーションが不可欠である。現在一年生であり、これから就労のために本格的に実習を重ねていくタイミングである。そこで、この授業では、実習での自然な挨拶、コミュニケーションのやり方を学び、就労に備える。それだけでなく、世代の違う人達や、外国人との会話により、世代間格差や文化的格差を、あまり意図することなく自然な架け橋になることを期待している。</p> <p>【指導観】今回日本語を主に使うのは、決して「生徒の外国語能力が低い」からではない。生徒達の実際の就労先で使う言語が主に「日本語」であるため、日本語を指導することにした。コロナ過で減ったとはいえ、日本には多くの外国人がいる。その人達全員が英語話者ではない。日本にいる彼らが日常的に見たり聞いたりしているのは、日本語である。そうであれば、はっきりと短く、文の最後まで言う、という日本語の話し方が多くの外国人にとってもわかりやすいはずである。阪神淡路大震災のときに、日本語が分からない外国人の方が、避難所や水・電気・ガスなどの情報を得るために苦勞したことから、弘前大学で「やさしい日本語」の研究が進んだという経緯がある。多くの自治体でも、「やさしい日本語」で外国人に情報を伝えるという動きが増えてきている。生徒と周りの人達が仲良くなるための本当に必要なコミュニケーションという課題に対し、日本語というツールを使うことにした。</p>
---	--

6. 単元計画 (全12時間) 3時間 x 4クラス

	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	大人になったらどんな生活をした い?	卒業2年後の <u>なりたい自分</u> ： <u>目標</u> をイメージする。 <u>コミュニケーションが大切なこと</u> を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・20歳のなりたい自分をイメージする。絵(文章)で表現する。 ・隣にいるのは誰?人との関わりがあると幸せな気持ちになれるのでは? ・なりたい自分を発表! ・コミュニケーションがうまくいくと居心地がよくなる。 (実習中の出会い 例) ・仲良くなるためには<u>出会う場所・話をすること(コミュニケーション)</u>が必要。 	資料「20歳の生活」 資料「ベトナムのAさん」 ベトナム人Aさんと本校実習生Bさん スライド
2	人が出会い仲良くなるためのアイデア作り	自分と違う年齢や文化の方と出会い仲良くなると居心地の良い場所が増える。 <u>仲良くなるためのアイデア</u> を考える。 <u>多文化共生のアイデア</u>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲良くなるためには、場所と会話が必要と確認。 ・「皆さんは社会の、いろいろな人に会えているか?(お年寄りや赤ちゃん、外国人などに会えていないのでは?)」 ・どうしたら仲良くなれるのか。 ① 町づくり: JOCA 東北 ② 一緒に何かする ・皆が出会って仲良くなるための方法を考える 一緒に何かするという方法(イベント 	資料「社会の人々イラスト」 資料「JOCA 東北写真」

			教室 同好会等) 5人ずつx2グループのチーム戦 数の多い方が勝ち ・発表 ・一緒に何かする、というのは仲良くなるための一つの方法 マレーシアでは違う民族のお祭りでも互いに楽しむことにより、国家として団結する。 ・仲良くなるためには、 <u>出会って言葉を交わすことが必要</u> 。	グループ 対抗ゲーム形式 ブレーンストーミング 資料「マレーシアのCさん」
3 本時	初めての人へどう話しかける？	仲良くなるためには、コミュニケーションが必要。第一ステップでは、 <u>初めての人への自然な声掛け</u> ができるようにする。 実践	・仲良くなるために話すことが必要。「どう話しかけるか？」 ・「お年寄りと話すと時、どんなことに注意する？子供は？外国人とは？」 ・話したことの無い人に話しかける。 ・教員アドリブ劇：会社の運動会後のお疲れ様会 ・話す内容は？ポイント①～④ ・3グループに分け、それぞれアドリブ劇作り ・発表 ・応用 お祭りの日に 泣く子供 ・「一言話しかけることによって、友達を作るチャンスができる。居心地の良い社会を一緒に作っていきましょう」。	資料「社会の人々イラスト」 資料「書き込みシート」 資料「教員アドリブ劇」 話す内容ポイント アドリブ劇
7. 本時の展開（3時間目） 本時のねらい：居心地のよい社会を作るためには、人々が出会い、会話をする場が必要である。本校の生徒達は、初めての人に話しかけることが難しいと感じている生徒が多い。そこで、話しかける自然なやり方を伝え、練習することで、会社という場で生徒が居心地の良い場所を作れるように準備を行う。また、地域という場でもコミュニケーションの大切さを意識してもらおうべく、迷子の子供の例を一つ入れた。話しかけ、話したことの無い人とも仲良くなるきっかけを作してほしい。				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態		指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	前回のまとめ(振り返り) ・仲良くなるために話すことが必要。「どう話しかけるか？」		目標をはっきりさせる。どう話しかけるか？	
展開 (40分) 注意点 5分	・いろいろな人達がいる。 「お年寄りと話すと時、 <u>どんなことに注意する？</u> 子供は？外国人とは？」 ・話したことの無い人に話しかける <u>分かりやすく話す</u> はっきり 短く 最後まで		お年寄りには？ 子供には？ 外国人には？ (目線、ボディランゲージ等含め)	資料「社会のいろいろな人々イラスト」 資料「書き込みシート」
アドリブ劇・話す内容 10分	・会社の運動会後のお疲れ様会 教員アドリブ劇 <u>内容は</u> ① 自分と相手に共通点(同じところ)があればそれを言う。 ② 相手が困っていれば、どうしたのか聞く。 ③ 目の前のことを、そのまま言う。 ④ ほめたり、感謝することがあれば、ほめる、		アドリブ劇 劇は副教員と練習しておく。披露	資料「教員アドリブ劇」

<p>グループワーク 10分</p> <p>劇発表 10分</p> <p>その他の場面 5分</p> <p>まとめ (5分)</p>	<p>・3 グループに分けて、それぞれアドリブ劇作り 会社の食堂で：外国人がラーメンを食べていた スマホに悩むお年寄り 同じ新入社員に会った</p> <p>・アドリブ劇発表</p> <p>地域で どういう風に声をかける？ お祭りの日： 泣いている子供 友達の弟か妹 そばには誰もいない</p> <p>・「一言話しかけることによって、会社が居心地の良い場所になります。居心地が良くなれば会社で長く働き続けることができます。お祭りや趣味を通じて、地域でも幸せに住み続けることができます。居心地の良い社会を一緒に作っていきましょう。</p>	<p>生徒が十分に考え、互いに役割を割り振り、発表できるように支援。 口頭で</p> <p>この授業の目標、達成するための方法を確認する。</p>	<p>資料「書き込みシート」のイラスト</p> <p>SDG s</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> <p>16 平和と公正をすべての人に</p> <p>17 パートナリーシップで目標を達成しよう</p>
<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書き込みシート」を利用し、話す内容や話し方のポイントを理解できているか。 ・アドリブ劇作りでは、互いに協力し、考察できているか。適切な言葉を選ぶことができたか。役割分担ができたか。クラスの皆の前で発表することができたか。 ・本日の目標と目標を達成できる方法を理解できたか。 			
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを多く取り入れ、それぞれ考えを尊重しながら学習する。 ・ALT や外部の外国人講師にアドバイスをいただき、進めている。 			
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校は、学校自己評価システムにおいて、「国際化に おける異文化理解を進め、グローバル社会を生き抜く資質・能力の 育成」を目指している。そのための具体的方策として職業学科では「国際交流を通じて、グローバル社会に対応する人材育成に取り組」んでいる。そのため、外国語の授業の一環として外国人講師を招き、それぞれの国の文化について話していただく授業を行っている。今年度は、韓国・ブラジル・アルゼンチン・ジャマイカ・カナダの講師が来校し、上記の国について学ぶことができた。 ・授業で外国の様子が分かるような動画を見て、世界には多くの国があり、人々が多様な暮らしをしている様子に目を向けている。JICA 作成の「ブイーノザンビア」、NHK for School の「キソ英語を学んでみたら世界とつながった」という番組を視聴している。 ・移民かるたやモノづくりゲーム、スクラブルなど、ゲームを楽しみながら自然に世界の様子が学べる教材を取り入れている。 			

【自己評価】

<p>11. 苦労した点</p>	<p>生徒達がコミュニケーションの大切さを理解し、自然に人に話しかけることは、現実的な課題である。1限目に生徒に描いてもらった「5年後の自分（20歳）の生活」を見ると、あまり人が出てこない。「正社員になる」「好きなゲームをする」「一人暮らし」などが多かった。彼らが「会話して仲良くなる」ことを意識できるよう、生徒が身近に感じられるコミュニケーション成功例を授業に取り入れる必要があった。</p>
<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「実習先で外国人社員と仲良くなった本校の先輩」という例を示した。コミュニケーションがうまくいくことで、その外国人社員も本校の生徒も働く場で居心地が良くなったという利点を強調した。 ・JOCA 東北の町づくりは、自分が感じたままに、そののんびりとした気持ちよさを伝えた。行ってみたいという生徒が多かった。利用者としても、障害のある人が働く場所としても、JOCA 東北の多くの可能性を伝えることができた。 ・アドリブ劇は、互いに協力しあって話の進め方を考えられるので、特別支援学校の生徒にとって、わかりやすい手段である。まず教員がアドリブ劇の見本を示し（生徒苦笑！）、場面を設定してグループ別に劇を作る。グループによっては、次々にセリフが出てきて滑らかに劇ができ、オチまでつけることができた。一般的に楽しく進めることができた。
<p>13. 成果が出た点</p>	<p>コミュニケーションの向上を目指す授業なので、以下の2点を積極的に取り入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ① 2限目：仲良くなるために一緒に何を？（ブレインストーミング グループ戦） ② 3限目：会社で初めて話す人同士のアドリブ劇 ・アドリブ劇 ① 3限目：教員のアドリブ劇見本（コント的） ② 3限目：会社で、初めて話す人同士のアドリブ劇（グループ） ③ 3限目：地域で、初めて話す人とのアドリブ劇（個人） <p>クラス全員の前で声を発することにも臆病な生徒も、グループで活動したり、セリフを皆で確認することによって、アドリブ劇を行うことができた。さらに、教員のアドリブ劇に・コント的・笑える・何やってるんだ要素を入れることにより、その後の生徒達の劇は自由に想像をふくらますことができた。</p>
<p>14. 学びの軌跡 （児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）</p>	<p>生徒の反応 抜粋</p> <p><u>1限目：20歳の生活</u> 1-Dのaさん「ぼくは卒業して2年で会社が髪を染めていいと言ったら、髪を茶色に染めたりストレートパーマをかけたいと思います。お給料をたまったり（ためたら？）旅行に行きたいと思いました。」</p> <p><u>2限目：仲良くなるために一緒に何を？</u> 1-Cのbグループ「みんなで一緒にテレビを見る、歌を聞く、昔遊びをする、お出かけする、カルタ、料理、工作、ゲーム、運動、カラオケ、英語教室、手話教室、バーベキュー、海・</p>

	<p>プール、紅葉狩り、野球大会、旅行、合唱祭、クリスマス、ハロウィーン、バレンタインチョコ作り」</p> <p><u>3 限目：アドリブ劇 1-A (2人) 会社の食堂でラーメンを食べている外国人社員に会った。話すのは初めて、という設定。</u></p> <p>A 😊：こんにちは</p> <p>B 😊：(外国人) こんにちは</p> <p>A：このラーメンおいしいですね。ネギがたくさん入っていて。</p> <p>B：私もこのラーメン好きです。</p> <p>A：どんなラーメンが好き？</p> <p>B：豚骨味かな</p> <p>A：おいしいところ知っていますよ。今度一緒にいって見ない？</p> <p>B：(ちょっとふざけて) 行かんわ！</p> <p>最後のセリフは、初めて話すという設定を少し逸脱していたが、Bがこのセリフを言ったとたん、クラスは大爆笑。楽しい雰囲気が伝わってきた。</p>
<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>障害を持つ人や社会的弱者は、支援してもらおう立場になることが多い。支援する側と支援される側では、上下の関係ができやすい。しかし、周りの人と友達として仲良くなるためには、『自然に、対等に、話す』ことが近道である。その過程で困っている人を助けたり、一緒に楽しむことも必要だろう。本授業では、自然な声のかけ方と、より親しい人間関係を作るための工夫を生徒と一緒に考えた。これは、生徒が社会で自分の気持ちの良い居場所を作るためのきっかけに過ぎない。現時点で彼らは1年生なので、2年次、3年次と今後も周りの人とのコミュニケーションの方法を学び、仲の良い人を増やし、幸せな人生を歩んでほしい。</p>

参考資料：

文部科学省『特別支援学校高等部学習指導要領』（平成31年度文部科学省告示第14条）

糸賀一雄『この子らを世の光に』（1965） 柏樹社

一般社団法人 Think the Earth 編『未来を変える目標 SDGs のアイデアブック』（2018）

田中治彦 枝廣淳子 久保田崇編『SDGs とまちづくり 持続可能な地域と学びづくり』（2019）
学文社

佐藤真久監修 編集協力認定 NPO 法人 ETIC 『未来の授業 SDFs ライフキャリア Book』（2020）
宣伝会議

公益社団法人青年海外協力協会（JOCA） 「青年会議協力協会は日本を“ごちゃまぜ”にします。」

JOCA 東北 公益社団法人青年海外協力協会「道が交わり、人が交ざる Iwanuma Way Project」

岡崎広樹 PHP Policy Review 2021.3.12 Vol.15-No.80 「隣近所の多文化共生」の課題 一芝浦団地の実態と実践から一